



赤井川村敬老会の今とむかし」上：令和元年敬老会 下：昭和38年度敬老会（提供：山口 麻未 氏）

あいさつ

朝に息を吸えば、喉に凍みる季節となりました。冬がまへの時期もうすぐですね。雪深くなる時期にも、赤井川村の隣近所ではたくさんの繋がりが息づいています。

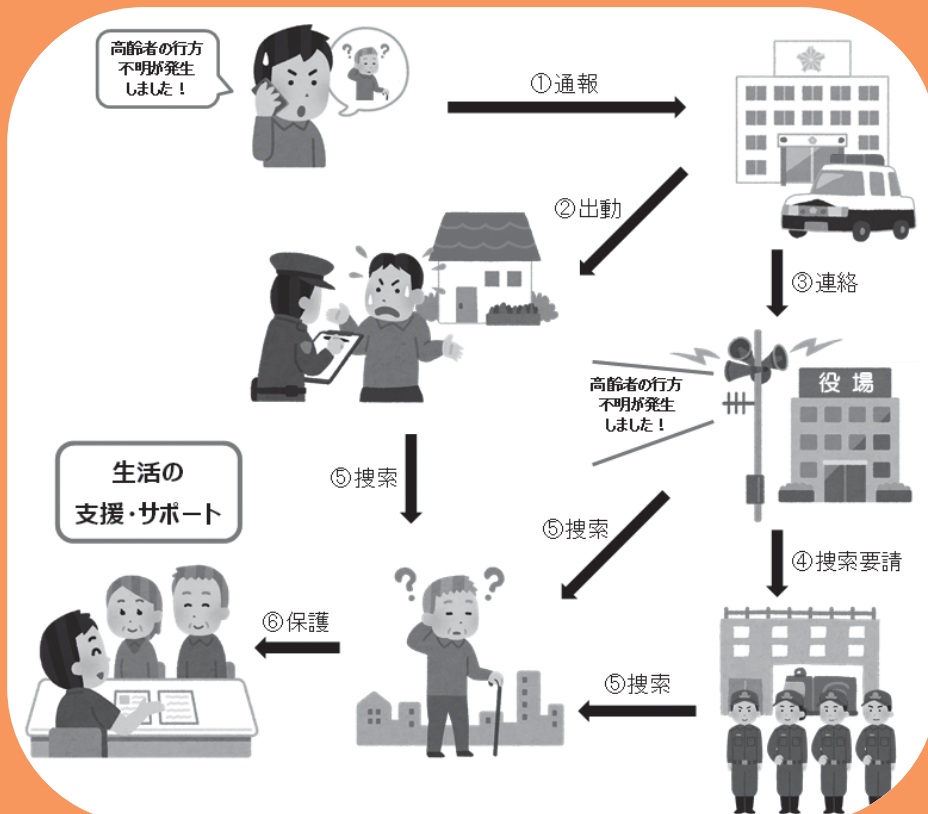
お一人で不安に感じていることはありませんか？お近くのたすけあい隊の方へ、一言でもご相談ください。つながりを持つことから支え合いが始まります。

（赤井川村たすけあい隊メンバー 一同）

2019.10

NO.4

SOSネットワークをご存じですか？



◆認知症の方や、障がいをお持ちの方、お子さんなどが行方不明になられた際に、地域ぐるみで速やかに発見・保護し、その後の生活を支援していくネットワークシステムです。道内では現在114のネットワークが展開されています。

◇模擬訓練が行われました◇

8月23日(金)役場にて赤井川駐在所長監修のもと訓練を実施しました。役場職員をはじめ駐在所、消防、社会福祉協議会、地域包括支援センターなど村内の電話窓口を担当する職員、計19名が参加しました。

各員が相談対応にあたる心構えを学ぶと共に、意見交換から改善点等を協議しました。今後は、より村内の皆様に活用していただけるネットワークへ拡充、随時お知らせをして参ります。



▲住民役と職員役での相談対応訓練

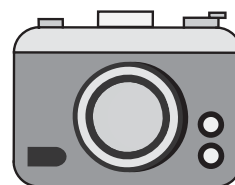
■《表紙の写真募集します》

赤井川村の中で撮られた、昔の写真を募集しています。撮られた年代、場所、どのような場面かなど、あわせてお知らせください。

他コーナーでも掲載されたい取組、人物、場所なども募集しています。

「生活支援コーディネーター 上妻」までご連絡ください。取材に伺います。

>>ご連絡先⇒健康支援センター 電話：0135-35-2050<<



この人は誰？ この場所はどこ？ 第4回

赤井川村のメインストリートに沿って建つ、たばこ屋 兼 のんびり休憩所の「河村商店」。
今回は店主 葛原さんが描くエッセイから 出会い的一幕をご紹介します。

村の小さな煙草屋

葛原 多恵子

「それを2個ください」

ショーウィンドに指をさす、その男性を見ると、どこか暗い影がある。

言われるまま、それを手渡した。

「バスは何時にありますか」

時計を見ると、既に発車した後である。

「次は午後からですけど、どこからいらしたのですか」

「私はこの村に住んでいます」

「あら、そうでしたの。あまりお見掛けしない方だから……」

「ここで煙草を吸っていいですか」

我が家の店の片隅に置いてある古い木製の長椅子に腰を降ろし、煙草に火をつけ、口から細い煙を出した。

その姿には、何とも言えない安堵感がある。

そのそばで、私は立ったままで居た。私の孫と同じぐらいの年代であろうか。

余り話しかけ過ぎると、うつとうしく思われるかもしれない。
年代の違う者との距離感には気を遣う。

祖父母の代からの雑貨店であるが、時代の波には逆らえず、今はタバコ専門店である。

我が国は、煙草だけは専売制である。そのお陰で辛うじて生き残っているのかもしれない。

その男性に声をかけて見た。

「こちらで何しているの？」

「農業の手伝いです」

背は高く、端正な顔立ちである。どう見ても土と共に生きている人には見えない。

「出身はどちら？」

「神奈川県相模原（さがみはら）です」

「えっ、相模原のどこ？」

つい先ほどまで若者との距離は考えてと、思っていたのはどこ吹く風。私はただの、お喋り好きの煙草屋のお祖母さんに？ 変身した。

「私の孫も淵野辺（ふちのべ）に居て、俳優を目指しているんですけど、どうなりますかね……。祖父母の私達は遠くで見守るしかないです」

「見守ってくれる人がいて、いいなあ。僕も今迄、芸能界に入りたくていたのですが、なかなか難しくて」

「そつだったの。道理で、あなたを見た瞬間とてもイケメンだと思ったの」

男性は照れているが、嬉しそうな顔をした。

それから、淵野辺境界の話で盛り上がった。

最初暗かった男性は、自ら喋りだした。夢が叶わず、この村に、父親の知り合いがいたので、それを頼って来たとのこと。土に触れ、汗を流して働いてみて、生きている実感を得たとのこと。

私は男性が迷い、迷いここにたどり着いたのだろうと思うと、何とも言えない気持ちになった。

「ここへ来て、故郷、淵野辺の話をしたのは初めてです。また来ていいですか？」

来た時のあの雰囲気とはまるで別人のように、明るく去っていった。

今のご時世から言って、煙草屋は決して胸を張って言えるような商売ではないかもしれない。

しかし、人はそれぞれ悩みを抱えて生きている。

苦しい時、一時でも羽を休める場所が欲しい。それが我が店の片隅であるなら、そして煙草の煙と共に、その人の苦しみが青空に舞い上がることを願わずにはいられない。

赤井川村のお宝！



舞踊愛好会

日本舞踊「西川流」師範の桐木蕭子さんがご指導されています。創立は昭和55年10名のメンバーから始まり、村内行事へは恒例のご参加をされています。

現在は5名で活動されており経験年数は様々。「本当に舞踊が好きな方に来て欲しい」とお話してくださいました。

舞踊には女踊りと男踊りがあります。表現も多彩で、傘、扇子、手ぬぐいなどの小道具による表現も。ゆったりとした動きに見えますが一曲を終えるごとに汗だくに！「意外に筋肉を使うのよ」と、舞踊はきれいな体づくりにも一役買われているとのことでした。



- 場所：赤井川村生活改善センター
- 月日：毎週木曜日
- 月謝：2,000円
- 連絡先：桐木 蕭子師範まで

美容室さちさんと▶
着付けと髪結いを。

移動駄菓子屋

日ノ出地区にお住まいのミリケン恵子さん、駄菓子を販売する傍、紙芝居も読んでいます。ほか小樽市のベーカリーのメロンパンの販売もあり、どなたでもお越しいただけるようになっています。

「小銭を握りしめて通う駄菓子屋は、いつの時代も子どもが主役の『子どもの社交場』。拍子木を打って子ども達を集め、皆に糸引き飴を配ってから始まる紙芝居もまた、子ども達の色褪せぬ思い出を生んできました。その『情景』を赤井川の子供達にも残したいと駄菓子屋を始めました。赤井川にできた『古くて新しい』子どもの社交場です。どうぞ地域の皆様にも温かく見守っていただきたいと思います。」と想いを伝えてくださいました。



- 場所：カルデラ公園駐車場
- 月日：毎週水曜日 午後5時から
(悪天候の場合お休み
暗くなれば時間は早まります)

昔の若人おしゃべりサロン



月に1度のサロンには、毎回20名以上の方ご参加があります。65歳以上の村民の方をお呼びし、様々なプログラムを行っています。

今月はボランティアの方も参加され「敬老会」が開かれました。茶器を使ってお抹茶を点て、ほっと一息。おかわりも続々出るほどでした！

「久しぶりに会ったね、あんた元気になってたかい？」と顔をのぞく方や「昔お茶を習ってたんだよね」と懐かしむ方も。



村民の方により楽しみを持っていただけますように今後も催しを企画されているとのことでした。冬の催しも、ぜひご期待ください。

- 場所：赤井川村健康支援センター
- 月日：毎月 区会回覧にてお知らせします
- 連絡先：赤井川村地域包括支援センター
≫0135-48-5205<

「村の暮らし聞き書き」

本年度、「開村120周年記念聞き書きプロジェクト」が実施されています。村史とは趣旨を画し、人間味に溢れた村民さんたちの実際の話し言葉をそのまま文章として書き起こして、1冊の本にしています。

今回はこの事業にボランティアでご参加されています方の想いをお聞きました。

話したい方は実は多くいらっしゃる。

「昔」とは「今」があるからこそ過去の存在になり、その「昔」を生きた方の営みがあったからこそ「今」の自分たちの暮らしがある。

自分たちの住んでいた場所の有り様を文字に残すことで、先人の知恵やかつての暮らしの良さ、経験を生きたまま残し続けていく。その中から今の時代が学ぶべき所が必ずある。これらは残そうとして遺るものになる。そこに意味を感じ聞き書きに参加していますね。

ある方の取材で、「死んだじいさんの話、もっと聞いておけばよかった」と最後に一言。その一言に聞き書きに携わることの全てが凝縮されていたと思っています。

言葉を少しでも残していくことで、後を生きる方たちへ気付きや、大切な思いを抱ききかけになるのではないかな…。

高松 重和さん

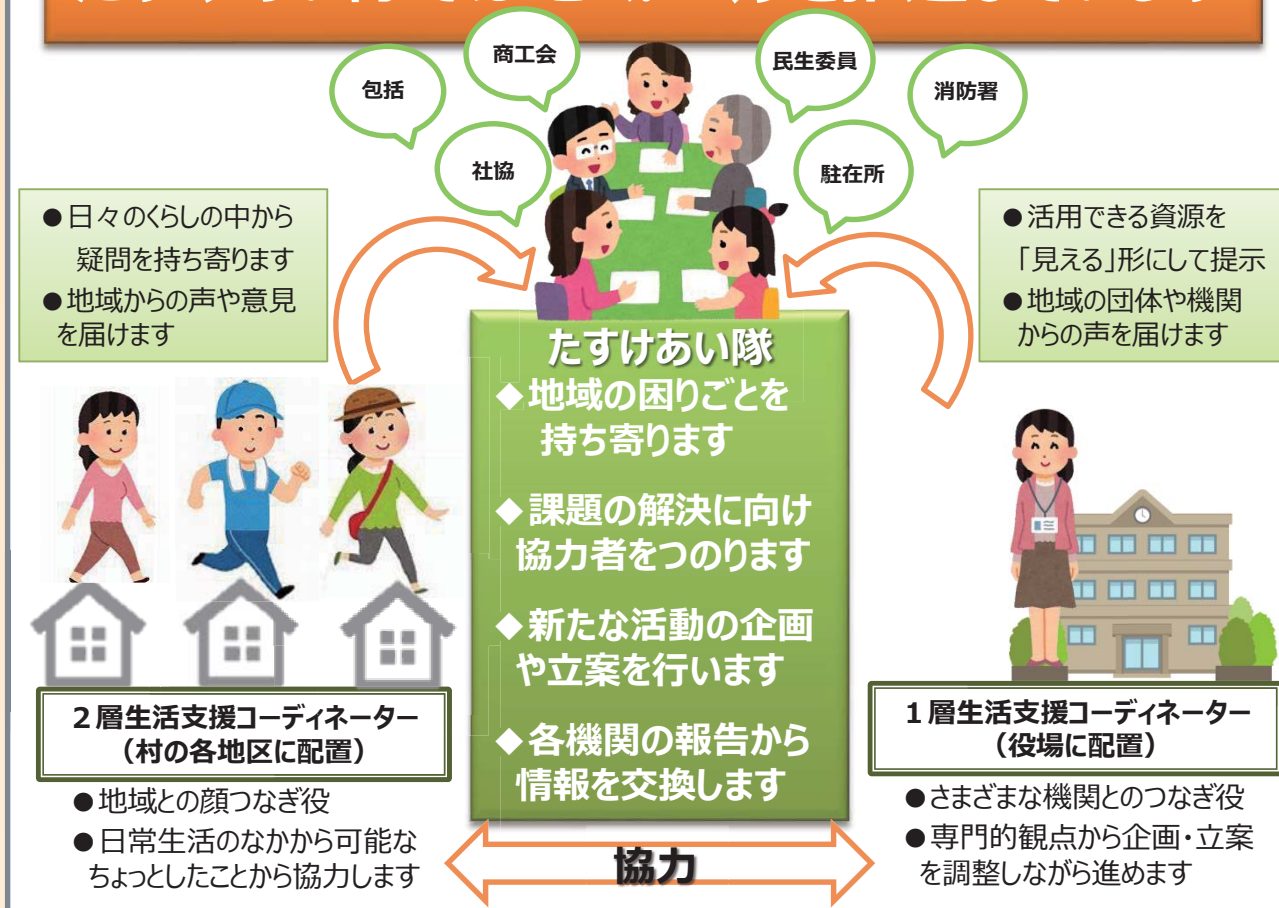
「つなぐ」のは時代、そしてそれぞれの人生という物語

文章を書くことの多い私は、この数年の間に「つなぐ」という言葉を、何百回と使っている。どうやらこの言葉には相当数の意味がある一方、残念ながら、現代ほどこの「つながり」を失った時代もないかと思う。

開拓から始まったそれぞれの物語には、幾多の苦難と、それを乗り越えた分の大きな喜びに溢れていたであろう。けれども、年月と共に人は世を去り、遺した言葉もまた消えていく。聞き書きとは、絶えず流れ消え逝く物語を文字にして起こし、次の世代へとつなぐことである。そこから生まれた工夫や知恵は、便利であることを当たり前にしてきたこれからの世代に、必ず大きな財産となるだろう。今回名乗り出た「橋渡し役」で、彼らの人生が色あせること無く、繋げられるよう頑張りたい。

ミリケン 恵子さん

たすけあい隊では地域づくりを推進しています



たすけあい隊の活動の様子



▲会議を傍聴することも可能です。
(会議で個人情報の取り扱いがあれば
誓約書等への記名を求められることがあります)

◆毎月、会議を行っています◆

- ・生活支援コーディネーターの活動報告
 - ・地域や機関からの「困りごと」を持ち寄って、それに対して何ができるか意見交換を行います。
 - ・既存の資源を再調整したり、新しい資源を作るための企画や計画を行います。
- ◎各機関で円滑に連携ができるように情報共有や、役割分担を行うことが大切な機能となります。



発行日
発行・編集

令和元年10月15日(年4回発行) No.4
赤井川村たすけあい隊(赤井川村生活支援体制整備協議体)
事務局:赤井川村介護保険課
〒046-0501 余市郡赤井川村字赤井川318-1
(赤井川村健康支援センター内)
TEL:0135-35-2050 FAX:0135-35-2051
E-mail:kaigo2@akaigawa.com